

「一人一人の学びにICTを生かす実践研究」

令和5・6年度共同研究（ICT 部会）

【研究テーマ】

児童生徒一人一人が個別最適な学びを充実させる授業づくり

～ICT を必要に応じて個々の学びに生かす～

研究で大切にしたいこと

一人ひとりに合った学習方法と学習
形態が選べる学習環境を設定しよう



必要に応じてICTを選択できる
力を子どもたちに身につけたい

子どもたちの思いを大切にしながら単元計画を立てよう

【研究員】

◎加賀谷元（下府中小） 鈴木直人（桜井小） 長澤孝江（富士見小）
○加藤太一（白山中） 三廻部啓輔（泉中）

はじめに

本研究は、令和3年1月発出の中央教育審議会答申で強調された「令和の日本型学校教育」の理念を踏まえて推進された、令和3年度・4年度2年間の「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～児童生徒一人一人の学びに視点をあてて～」をテーマにした共同研究を引き継ぎました。

一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現をめざし、新たなテーマを、「児童生徒一人一人が個別最適な学びを充実させる授業づくり～ICTを必要に応じて個々の学びに生かす～」としています。

さて、教師視点からの「個に応じた指導」は、古くから時代ごとに政策的な方向性として掲げられてきましたが、改めて取り上げられている今日的意義は三つあるとされています。

一つ目は、「これからの社会に求められる資質・能力の育成」の視点です。予測困難な社会の変化に主体的に向き合うために、個々の児童生徒が自らの可能性を発揮するべく、特性や興味関心に応じて学習を自己調整しながら学べるようにすることが求められています。

二つ目は、「多様な教育的ニーズ」に応えることです。家庭の社会経済的状況の厳しさや、児童生徒の学習・行動面の困難さ、日本語を母語としない児童生徒や不登校児童生徒への対応等は、喫緊の課題です。個々の状況に応じた適切な対応が求められています。

三つ目は、「学校における学習環境の変化」です。GIGAスクール構想による一人一台のICT端末や高速大容量の通信環境整備は、個に応じた指導を進める上で、これまでにない大きな可能性を秘めています。

この、古くて新しいテーマによる研究ですが、「子ども主語の学びを生み出すために、教師主語の研究や学びを絶やさない姿勢」が強く求められています。その意味で、主体的・対話的で深い学びに向かう子どもの姿を具体的にイメージし、子どもの思考ベースで単元を見通した構想を練る営みを大切にすると同時に、必要に応じてICTを有効活用する一助として本研究収録をご活用いただくと幸いです。

結びに、この2年間、研究を深めてきていただいた研究員の皆さんと、1月の公開研究会の際に講師としてご指導いただいた早稲田大学の小林宏己名誉教授に心から感謝申し上げます。

令和7年3月

小田原市教育研究所
所長 中畑 幹雄

テーマ「一人一人の学びにICTを生かす実践研究」

令和5・6年度共同研究（ICT 部会）

1 テーマ設定の理由

1-1 背景

令和3年1月26日中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）』において、

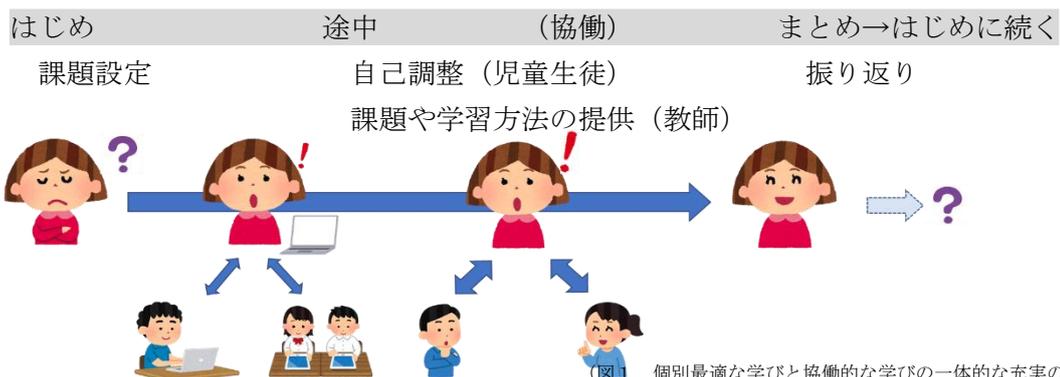
- ✓ 「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者側の視点から整理した「**個別最適な学び**」
- ✓ 探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士であるいは多様な他者と協働する「**協働的な学び**」

それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。

特に、「新学習指導要領では、『個に応じた指導』を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図る」と述べ、学習者の視点から学びを捉えなおした「個別最適な学び」を第一にあげ、「これまで以上に、子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導支援することや、子供が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるように促していくことが求められる」として、**学習者一人一人の学びが確実に充実したものである必要性**を明確にしている。

1-2 現状の課題

本市においても令和3年度からの学習用端末の本格運用に伴い、令和3・4年度の共同研究「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～児童生徒一人一人の学びに視点をあてて～」において、ICTが効果的に学習場面で活用できるよう研究を重ねてきた。特に、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することについて、児童生徒一人一人の学びが個別最適な学びとなっていることをベースとし、学びを深めていく過程で協働的な学びを充実させることが重要であると考えた。そして学習者がどのような場面でICTを活用すると学びが深まるのか実践を重ね、学びを深める道具として効果があるという研究の成果が得られた。



2 テーマについて

令和3・4年度の研究においては活用の場面に視点があたり、より効果的な場面での活用について研究が進んだ一方で、学習者がどのように学びを深めていったのかという一人一人の継続した学びに注目し、「個別最適な学び」の充実をはかるという視点では課題が残った。つまり、学習者が自分の学習状況を把握して自己の学びを調整したり、他とかかわって学んだことを自分の学びに生かしたりと、学びのプロセスとして個別最適な学びであったかどうか重要である。そこで**本研究ではより「個別最適な学び」の充実**に視点をあてる必要があると考えた。

このような背景・現状の課題をふまえ、本研究では、児童生徒が自分の課題をもち、**必要に応じて ICT を活用しながら**、継続的に自己調整をし、個別最適な学びを充実させていくには、どのような授業を創造していったらよいのかということについて、その手立てを明らかにしていくこととした。そして、その実践事例や成果を市内小中学校に広めていきたいと考え、研究テーマを次のように設定した。

<研究テーマ>

児童生徒一人一人が個別最適な学びを充実させる授業づくり
～ICTを**必要に応じて**個々の学びに生かす～

3 研究の経過

3-1 研究体制

- ・研究員を、小中学校5名とする。
- ・委員長、副委員長をきめ、研究を推進していく。
- ・講師を招聘し、研究に対する示唆をいただく。

(早稲田大学名誉教授 小林宏己氏)

3-2 研究の流れ

- ①研究の目的を共有する。
- ②事例を集めるとともに、「指導のポイント」の仮説を立てる。
- ③授業実践を行う。

実施の際には広く授業を公開するとともに、研究員のいる各校での取組についても、他の研究員や研究所職員が可能な限り関わる。

- ④成果をまとめ、各校への展開をする。
 - ・公開研究会を行う。
 - ・「研究のまとめ」を作る。

3-3 研究日と内容

< 1年目 > (令和5年度)

	月	日	曜	研究内容	備考
1	5	18	木	・自己紹介 ・研究イメージの共有 ・研究の計画について ・仮説検討	場所：研究室
2	6	5	月	・仮説検討 ・各自授業事例共有の確認	場所：研究室
3	7	10	月	・仮説検討 ・授業事例の共有	場所：研究室
4	9	4	月	・実践案の共有 ・研究授業①について	場所：研究室
5	11	16	木	・研究授業①	場所：白山中学校
6	12	13	水	・実践の共有、今後の方向性を考える	場所：研究室
7	1	26	金	・ITリーダー連絡会での実践報告（担当指導主事） ・ITリーダー連絡会の報告 ・各校での実践の共有	場所：研究室
8	3	5	火	・1年目の成果と課題をまとめる ・年間反省・次年度の見通しの共有	場所：研究室

< 2年目 > (令和6年度)

回	月	日	曜	研究内容	備考
9	5	14	火	・年間研究計画・研究内容の確認 ・公開授業と研究のまとめについて	※研究のまとめ方の共有・検討 ※授業日の確認
10	6	17	月	・指導案検討	場所：研究室 実践日7・9～10月
	7	9	火	・実践授業①（研究所職員のみ参観）	場所：白山中学校

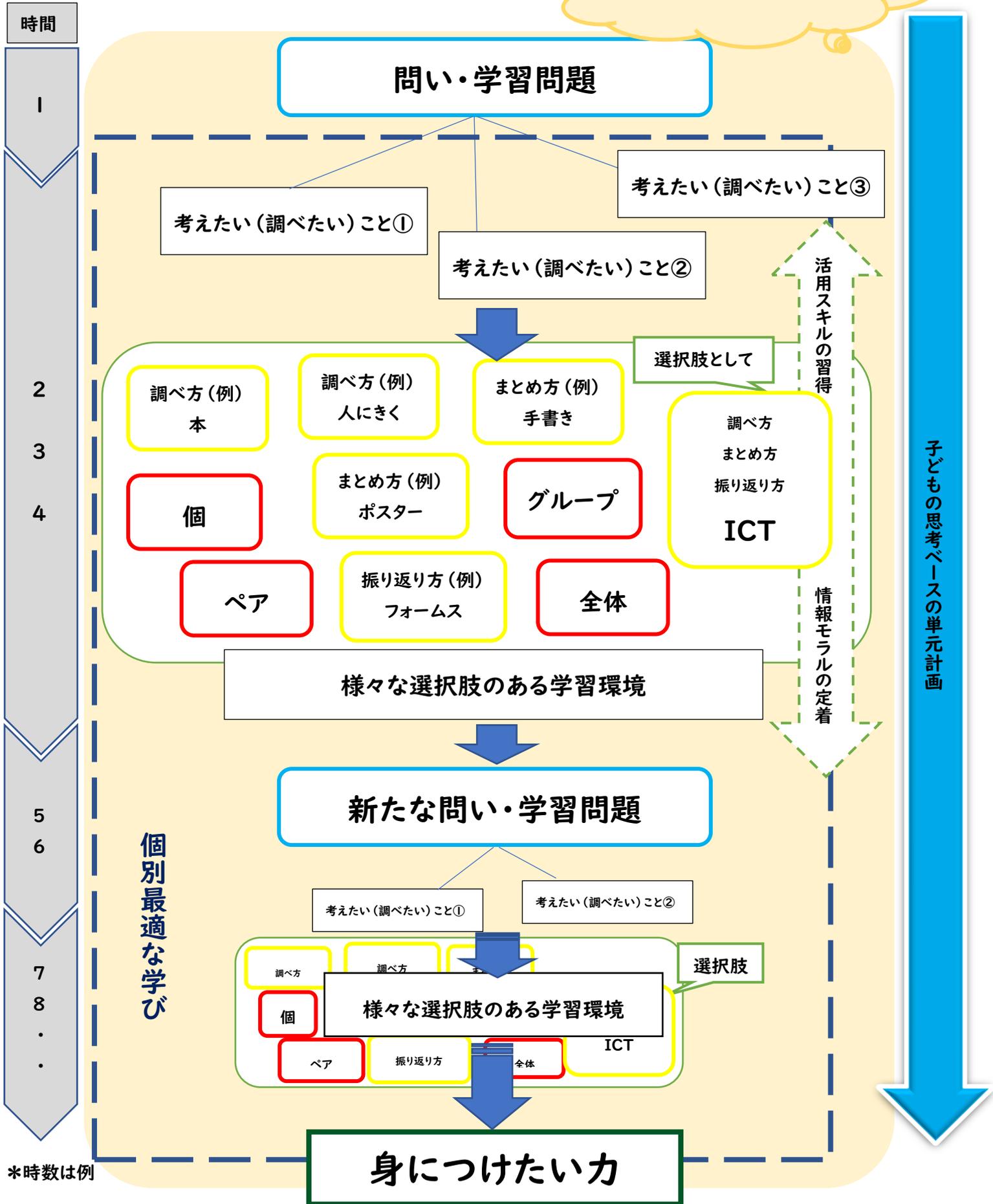
11	7	10	水	・実践報告・指導案検討 ・研究授業②の指導案検討	場所：研究室 ※スライドについて
12	10	3	木	・研究授業②	場所：泉中学校
	10	8	火	・実践授業②（研究所職員のみ参観）	場所：富士見小学校
	10	30	水	・実践授業③（研究所職員のみ参観）	場所：下府中小学校
13	11	5	火	・公開研究会準備 ・公開研究会当日について ・公開授業③の指導案検討 ・成果と課題検討	場所：研究室
14	12	10	火	・公開研究会リハーサル ・公開授業③の指導案修正 ・提案資料とPPの確認	場所：桜井小学校
15	1	28	火	・公開授業③（県内参観）・研究発表 公開授業及び研究協議 ・研究員の研究成果のまとめ発表	場所：桜井小学校
16	2	18	火	・研究のまとめの確認 ・研究の振り返り	場所：おだわら子ども若者支援センター 「はーもにい」

4 テーマにせまる手立て

1年目の研究においては児童生徒に ICT を自ら必要な場面で選択できるようになってほしいとの思いから、必要に応じて ICT を活用できたかを授業者の視点で考え授業改善を行ってきた。そのために、ICT を選択する児童生徒の姿を具体的に想像したり、児童生徒が自らの問いの解決のための選択肢を身につけたりすることを意識した単元計画を作成してきた。その積み重ねの中で、教科として身につけたい力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実施を意識しなければいけないことを確認した。そして、主体的に学びに向かうには、学習問題の工夫と児童生徒の思考をベースにした学習の展開を大切にすることにした。児童生徒一人一人の思い・問いを大切にした複線的な学習展開や一人一人にあった学習方法や学習形態が保障されてこそ主体的な学びになる。つまり、個別最適な学びを充実させることが不可欠で、その実施の中で ICT が個の学びを深める手段の一つとして十分にいかされる活用を2年目の研究で模索することとなった。また、主体的な学習の充実のためには、安心して学習に取り組める学級の雰囲気・情報モラルの定着・ICT活用スキルの向上なども必要であることも確認した。次の図はそのイメージである。

主体的・対話的で深い学びの実施イメージ

安心できる学級



2年目は、身につけたい力をゴールとし、子どもたちの思考ベースの学習展開を考え、個に合った学習方法・形態が選べる（協働的な学び・ICTを選択肢に含む）設定にした単元計画をもとに、実践・検証を行った。その手立ての具体については、各研究員の実践の中で説明する。

各研究員の実践

- 小学6年生 社会科での実践（資料1）
- 小学6年生 国語科での実践（資料2）
- 中学2年生 社会科での実践（資料3）
- 中学3年生 理科での実践（資料4）

5 公開研究会について

5-1 公開授業について

小学6年生 総合的な学習の時間での実践を公開した（資料5）。参加者は小田原市小中学校のITリーダーや校内研究の推進者など31名、他市教育研究所・総合教育センター職員15名、研究員5名、小田原市教育研究所所員6名であった。



本時は子どもたちが自分たちの活動や作った商品を全校児童や保護者に知らせるためのポスターや動画等をブラッシュアップする活動だった。改善をしたり分かりやすい資料を作成したりするには、ICTが便利であることを子どもたちは経験から分かっており、ICTは児童が自ら選択できる環境であるが、全員がICTを活用していた。中間発表後に友達からの改善点等のアドバイスを受け、それをもとに見直しを行った。アドバイスの意図や修正した作品の確認など、個別最適な学びとしての協働的な学びを行う主体的な姿が見られた。

5-2 参加者から

発表後の質疑では、①子どもたちの活動への思いが多様化していて、それをすべてみとめるのは大変なことだが、どのような工夫をしているのか、②本時の振り返りでは「紙」で行ったが、その意図は何なのか、③本日Canvaを活用している子がいたがどのくらいの期間活用しているのか、という3点質問が出た。①②については、子どもの活動の記録や振り返りを教師にとっても子どもにとっても活用しやすい方法はどれか考えて選択しているとのことだった。Canvaの使用は年明けから開始しているという回答だった。

参加者のアンケートには、ICTの活用の幅を広げるための各校での工夫の様子や苦勞が書かれていた。学級間や学校間での活用量の差を懸念している声も多く、市内での差を小さくする仕組みを求める意見もあった。また、子どもの思考ベースでの単元計画について、子どもたちの思いをもとにした活動や細かいみとりの大切さに共感する声が多かった。

5-3 指導・助言

早稲田大学名誉教授 小林 宏己 氏

学習用端末の使用が当たり前になるほど、使用頻度について差が開いているという課題がある。使用については児童生徒の個人差や個性差があってもよいものだが、使用の機会が与えられたのかどうかの課題は解決されるべきことである。ICTには可能性があり、子どもたちが目標を成し遂げるのにそのツールのよさが生きるようにできるとよい。

本研究では指導の個別化によって学習方法をフレキシブルに提供できた。ICTの選択は、活用が不得手な子にとって無駄な時間を過ごすことなく活動することにつながった。しかし、その不得手を個人差や個性差として放置することなく、実態を把握し指導・支援していきたい。今回の授業者からはICTの活用に係る指導・支援をまとめた座席表が提供された。子ども一人一人の実態、必要になると考える支援、身につけたい力など見通しをもっていることが分かる。併せて家庭環境なども活用に関わってくる。ぜひ、このようなみとりの上での活用を考えてほしい。

この研究では子どもの思考ベースでの学びの過程を大切にしている。教師がやることを決めるのではなく、子どもたちが挑戦する課題を決めるプロジェクトベースの取組である。この活動には、教師による指示や発問、正解はない。子どもたちが知りたい内容で、学びたい相手とともに対話によって納得解を探っていく活動である。子どもたちに主導権を渡してなお、授業の質を落とさないようにするためにICTは活用できそうだ。自他の多様な考えを知り、人間関係を広げ公平な学びを保証することができる。単元計画をブラッシュアップしながら子どもたちの思考力や表現力の質を上げてほしい。そうすることで探究のサイクルになっていくのである。

また本時では、学習用端末を介しながらも、肩を寄せ合い相談する姿が見られた。これはリモートではできない活動である。昨今リモート授業を行う学校が注目されている。しかし、子どもたちに寄り添い、子どもたちの意欲を支援する活動は対面だからこそできることであるから、ICTを活用しつつ、子どもたちと横関係でのつながりを大切にして日々の実践を充実させてほしい。

6 成果と課題

各研究員は、個別最適な学びを充実させるための授業づくりの中で、ICTを必要に応じて選択する力を身につけ生かしていくという研究テーマにせまる実践に取り組んできた。具体的には、成果を4点挙げる。

- ①問い・ゴールを明確にし、見通しがもてるようにしたことで主体的な学習・活動につながっていたこと
- ②児童生徒の思考ベースで単元計画を立てたことで、主体的な学習・活動が生まれ、学びを自分でコーディネートすることにつながってきたこと
- ③ICTを含む様々な学習環境を整えたことで、個別最適な学びにつながり、主体的な学習・活動になったこと
- ④ICTを活用して学習の足跡を残すことができるので、時や場所を選ばず学習や活動を

進めたり振り返ったり、他者と情報を共有したりすることができ、主体的な学習・活動につながったこと

②にあるように、児童生徒の学びをコーディネートする力は単元を追うごとに伸びが感じられる。最終的には子どもたちを信じ、子どもたちに任せる機会を作ったことで、学習の得手不得手に関わりなく、自己調整しながら学習する姿が見られた。また④にあるように、子どもたちは ICT の様々な機能を使いこなし、活用の場面を広げていった。ICT の活用がふさわしいと判断した場面において、よりよい活動にするために必要に応じて活用する力が身についたと考えている。

課題は3点挙げられる。

①単元で身につけたい力を精査すること

単元で身につけたい力の他、学び直したい点や ICT の活用に係る力などを組み込みすぎると、指導時間を圧迫してしまう。年間を通して、どの単元でどの力を身につけたいかの見通しをもつ大切さが明らかになった。

②教員と児童生徒の ICT 活用スキルの向上

場面に合った ICT の活用をするためには、教員も児童生徒も知識が必要である。授業以外の場でも ICT に触れる機会を作ったり、教員が情報をアップデートしたりすることが大切である。

③情報モラルの習得

ICTに限ったことではないが、児童生徒が安心して学べる学級がすべての土台になっていることが再確認できた。

成果と課題が明らかになったと同時に、いかに技術が発達し日々の実践に取り入れられるようになっても、子どもの思いに寄り添い、子ども主体で学習を進めていくというこれまでの教員の仕事は変わることはないことも確認できた。

7 おわりに

学習用端末の本格運用が始まり4年目になる。小田原市の推進計画では、これまでの教育実践をもとに、ICT機器を「道具」として有効に活用し、学び続けようとする意欲や豊かな創造性、様々な人と協働しながら課題を解決する力など、子どもたちが確かな資質・能力を身につけることを目標としてきた。本研究においても、「私たちが1番に考えるべきことは、これまでと変わらず子どもたちが身につけたい力をつけることやそのための授業づくりであること」「ICTはその中での選択可能な手段の一つであること」を前提として取り組んできた。そして、その取組によって個別最適な学びが充実したと考えている。

どの学級にも、ICTが選択肢にあることで、より学びが進み、深まる子どもがいるのではないかと思う。どの子も自分らしく学べる授業を一緒に考えていきたい。

本研究が先生方にとって今後の実践の参考になれば幸いである。

第 6 学年 社会科学学習指導案

指導者：加賀谷 元

1 単元名

「全国統一への動き」

2 単元の目標

- 【知】 想像図や絵図を読み取り、信長の政治の特徴をとらえ、まとめることができる。
秀吉がどのような社会の仕組みを作ったかをとらえ、まとめることができる。
信長・秀吉の後を継いだ家康が、どのようにして支配を固めたのかをとらえ、まとめることができる。
- 【考】 長篠の戦いの様子から、問いを見出し、学習問題として表現することができる。
3人の武将の政治を比較し、それぞれの政治が全国統一に果たした役割について考え、表現することができる。
- 【主】 学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追求することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 想像図や絵図を読み取り、信長の政治の特徴をとらえている。 ② 秀吉がどのような社会の仕組みを作ったかをとらえている。 ③ 信長・秀吉の後を継いだ家康が、どのようにして支配を固めたのかをとらえている。	① 長篠の戦いの様子から、問いを見出し、学習問題として表現している。 ② 3人の武将の政治を比較し、それぞれの政治が全国統一に果たした役割について考え、表現している。	① 学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追求しようとしている。

4 指導と評価の計画

(1) 指導にあたって (ICT の活用を含む)

本学級の児童はこれまで様々な学習の場面で学習用端末を活用している。ノートではなく、ドキュメントに打ち込んだデータを提出する場面があったが、提出率が高い。社会の学習では、歴史上の人物が行った事や起こった出来事を個人で調べ、個人の学習の成果を話し合いの足場として全体で話し合うという流れを、学習の基本として定着させようと指導してきた。本単元でも基本の流れに沿って学習を進めていきたい。

本単元では、戦国時代の3英傑（織田信長・豊臣秀吉・徳川家康）が行ったことを学習し、天下統一のための業績を大局的に分析し、戦国時代が終わった経緯について理解することを目的としている。授業の前半部分では、「長篠の戦い」の絵をデジタルで共有し、気が付いたことや疑問に思ったことを資料を拡大してTVに写しながら説明し、学習課題を作成する。その後3人の武将について調べ学習を行う。調べ学習では、教科書、資料集、図書室の本、インターネットを使用し、知りたい内容に合わせて児童が自由に選択できる環境を作る。これまでの学習では、「とりあえずインターネットで調べる」といった選択をする児童が多かったが、学習の見通しを持つことで、目的や学習の進度に合わせて最適な媒体を選択したり、検索のキーワードを考えたりできるようにしたい。

「推しの武将」を決め、その武将の功績をアピールする場面では、資料を拡大して掲示したり、スライドで発表したりできるようにして、ICTの特性を生かし、より分かりやすく発表できるように学習の場を整えたい。

(2) 単元計画

次	授授業時間数	
1. 「長篠の戦い」の絵をもとに、戦国時代の様子について話し合い、学習課題を作成する。	1時間	間 11時
2. 3人の武将はどのように天下統一を進めたのか調べる。	6時間	
3. 信長・秀吉・家康の業績をふり返り、それぞれの武将のすぐれたところを話し合いながら、天下統一への道について、自分の考えをまとめる。	3時間	
4. 自分が選んだ「推しの武将」に手紙を書こう。	1時間	

次	学習活動	手立て	評価						
1	<p>武士たちの戦い方を知りたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰と誰の戦いなんだろう。 鉄砲を使っているね。 川を挟んで戦っているよ。 右側は馬が多いけど、左は鉄砲が多い。 どっちが勝ったのだろう。 こんな戦いがあちこちで起こっていたのかな。 室町幕府はどうなっちゃったの？ <p>長篠の戦はどっちが勝ったのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> どっちが勝ったのか調べよう。 誰が活躍したのかな。 信長、秀吉、家康が活躍したようだ。 この3人で天下を統一したようだ。 <p>3人はどんなことをしたのかな？</p>	<p>○「長篠の戦い」の絵をもとに、戦国時代の様子について話し合い、学習課題を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気づいたことを発表する。 地形、持ち物、武士の様子に目を向けさせる。 <p>個人 → 全体</p> <p>長篠の戦いの結果や活躍した武将について調べる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>PC</th> <th>教科書</th> <th>資料集</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報検索</td> <td>文章 地図</td> <td>文章 地図 年表</td> </tr> </tbody> </table>	PC	教科書	資料集	情報検索	文章 地図	文章 地図 年表	<p>主①</p> <p>思①</p>
PC	教科書	資料集							
情報検索	文章 地図	文章 地図 年表							

2 3	<p>信長はなにをしたの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名を次々に倒していった。 ・力の弱った室町幕府を倒した。 ・対立した仏教勢力を抑え込んだ。 ・商工業で栄えた堺を支配した。 ・キリスト教を保護して、外国との貿易を行った。 ・輸入した鉄砲を戦で上手に使っていた。 ・新しい戦い方で、ほかの大名達を倒したことが天下統一につながったのかな。 	<p>○信長はどのようにして全国統一を進めようとしたのか調べる。</p> <table border="1" data-bbox="804 185 1310 360"> <tr> <td>PC</td> <td>教科書</td> <td>資料集</td> </tr> <tr> <td>情報検索</td> <td>文章 地図</td> <td>文章 地図 年表</td> </tr> </table> <p>個人 → 全体</p>	PC	教科書	資料集	情報検索	文章 地図	文章 地図 年表	知①
PC	教科書	資料集							
情報検索	文章 地図	文章 地図 年表							
4 5	<p>秀吉はなにをしたの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信長の後を継ぎ、天下統一をした。 ・年貢を効率良く集めるために、検地を行った。 ・百姓が一揆をおこさないように、刀狩をした。 ・反乱させないようにして、世の中を安定させたのが天下統一につながったのかな。 	<p>秀吉はどのようにして天下統一をなしとげたのか調べ、まとめる。</p> <table border="1" data-bbox="804 701 1310 875"> <tr> <td>PC</td> <td>教科書</td> <td>資料集</td> </tr> <tr> <td>情報検索</td> <td>文章 地図</td> <td>文章 地図 年表</td> </tr> </table> <p>個人 → 全体</p>	PC	教科書	資料集	情報検索	文章 地図	文章 地図 年表	知②
PC	教科書	資料集							
情報検索	文章 地図	文章 地図 年表							
6 7	<p>家康はなにをしたの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原の戦いで勝って、対立する豊臣方の大名を倒し、全国の大名を従えた。 ・征夷大將軍となって江戸幕府を開いた。 ・豊臣を滅ぼして、敵になりそうな大名はすべて排除した。 <p>天下統一のために頑張った3人。 あなたの「推しの武将」は？</p>	<p>家康は全国支配をどのように固めたのかを調べ、まとめる。</p> <table border="1" data-bbox="804 1171 1299 1323"> <tr> <td>PC</td> <td>教科書</td> <td>資料集</td> </tr> <tr> <td>情報検索</td> <td>文章 地図</td> <td>文章 地図 年表</td> </tr> </table> <p>個人 → 全体</p> <p>○信長・秀吉・家康の業績をふり返り、それぞれの武将のすぐれたところを話し合いながら、天下統一への道について、自分の考えをまとめる。</p>	PC	教科書	資料集	情報検索	文章 地図	文章 地図 年表	知③
PC	教科書	資料集							
情報検索	文章 地図	文章 地図 年表							

<p>8 9 10</p> <p>11</p>	<p>・ 3人の武将はそれぞれに個性を出しながら、政策を受け継いで天下統一をはたしたので推しの武将は3人。</p> <p>・ 信長は、新しいやり方を取り入れたので推しの武将にふさわしい。</p> <p>・ 秀吉は、社会の仕組みを整える努力をしたので推しの武将だ。</p> <p>・ 家康は、辛い時をじっくり乗り越えて、力を蓄えながらチャンスを待つことができたので推しの武将だ。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>推しの武将にファンレターを書こう！</p> </div>	<p>○個人で考え、推しの武将を決め、</p> <p>○グループで話し合う。</p> <p>○話し合いを通して、最終的に自分で判断した推しの武将について、発表する準備をする。</p> <p>○全体で発表する。</p> <p>※なぜ推しの武将に選んだのか、3人の業績をもとに説明する。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>PC</td> <td>模造紙・画用紙</td> <td>その他の資料</td> </tr> <tr> <td>スライド 動画</td> <td>新聞にする フリップにする</td> <td>TVに映す</td> </tr> </table> <p>○自分が選んだ推しの武将に手紙を書き、交流する。</p>	PC	模造紙・画用紙	その他の資料	スライド 動画	新聞にする フリップにする	TVに映す	<p>主① 思②</p> <p>主①</p>
PC	模造紙・画用紙	その他の資料							
スライド 動画	新聞にする フリップにする	TVに映す							

5 実践の様子

- ・ 児童の意欲が5割ほど増し、休み時間や家庭学習で取り組む児童が多数いた。
- ・ グループでの話し合いが予想以上に盛り上がった。推しが決まらない児童にとって、考える足場を得ることができていた。
- ・ インターネットで教科書にはない資料まで手に入れて考える児童がいた。
- ・ 同じ推し仲間ですライドを見せ合って参考にしていたり間違いに気づいて調べ直したりする児童がいた。
- ・ インターネットで得た「諸説あり」の情報を事実としてとらえてしまう児童がいた。「家康はてんぷら食べ過ぎて死んだ。」と発表した児童がいたので、「諸説あり」と補足した。

6 成果と課題

<ICTの活用について>

個別での調べ学習時、インターネットを使って動画・歴史サイト・年表・図等の資料の入手をし、3人の武将について、歴史的に行った事柄をどのように解釈するか、考えを深めることができた。一方、インターネットには「諸説あり」の情報も数多く存在するため、児童の学習の様子を注意深く見守る必要があった。

発表の時には、集めた資料を提示しながらスライドで発表したり、ドキュメントでレポートを書き、クラスルームに公開して発表したりした。人前で話すことを極端に苦手に行っている児童もいたが、レポート形式の発表に安心感を感じ、意欲的に学習に臨むことができた。

<個別最適な学びと協働的な学びについて>

インターネットの膨大な情報を前にして、必要な情報を取捨選択して学習に生かすのは実は難しい。図書室の本や教科書、資料集のように、整理された基本の情報の有用性を学習の前に確認したことで、インターネットが難しいと感じた児童は資料集などに立ち返って考えていた。一方、教科書の枠を超えてさらに興味を持って調べる児童は、インターネットを使って資料を探していた。

歴史的な事実を学んだうえで、その事実をどう評価するのかは児童によってそれぞれ違う。他者の事実への評価を聞くことで、多角的に歴史を学ぶことができていた。

具体例（児童A）秀吉は農民出身なのに、検地や刀狩りで農民を苦しめた。

（児童B）戦に駆り出されることがなくなり、平和な世で農業に集中できた。検地によって、持っている土地に合わせて年貢が調整されたから、負担が減って喜んでいた人がたくさんいたはずだ。争いごとが少なくなり、政治が安定して統一が保たれた。

複線的にそれぞれが自分の推し武将について調べてまとめるので、推しについての学習が深まった。最後に共有できるので、全体での単一の授業よりも多角的に深まった学習ができた。

第6学年 国語科学習指導案

指導者：長澤 孝江

1 単元名 相手や目的を明確にして、推薦する文章を書こう 「自分のおすすめの〇〇」

2 単元の目標

【知】 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解できる。

【考】 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。

【主】 文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって推薦する文章を書くことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（考）	主体的に学習に取り組む態度（主）
① 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の種類とその特徴について理解している。	① 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ② 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。	① 粘り強く、文章全体の構成や展開を考え、学習課題に沿って推薦する文章を書こうとしている。

4 指導と評価の計画

(1) 指導にあたって（ICTの活用を含む）

本学級の学級目標が「分かり合う」になったことにより、その目標達成のためには「自分の考えを相手に伝えること」と「相手の考えを知って受け止めること」が必要になるので、授業でもその2点を大切にしていけることを子どもたちとも共通理解している。自分の考えを伝える方法として「話す」と「書く」が主になるが、子どもたちにとって「話す」よりも「書く」のほうが困難さを感じていることが多い。現在、学習の振り返りや感想を書く場面では、視点や字数の目安を設けたり、ノートでもICT機器でも使いやすいほうで取り組んだりできるようにしているが、主語と述語の関係の誤りや一文が長くなるなど、自分の考えを書く際の基本的な知識や技能が身につけていない様子も見られる。しかし、書くという行為について、日ごろから積み重ねていることによって、書くことへのハードルは下がりつつあるようにも感じている。

本単元は子どもが文と文との接続の関係を理解し、自分の考えが伝わるように表し方を工夫して書く力を身に付けることを目的としている。昨年度、子どもたちが5年時に同じ内容をねらいとした単元を実施する際に、本研究のテーマに基づいて単元を構成した。当時、特に意識したことは、自分の考えを持ちやすい題材であることと、書くために複数の手段が選択できることの2点である。昨年度は「意見文」を取り上げていたことから、日ごろの学校生活の中で「もっとこうだったらいいのに。」をそれぞれが出し合うことはできたが、理由や根拠が不十分（自分の考えのみで、他者に意見を聞いたり調査に出たりする子は少数）な様子が見られた。また、書くための複数の手段について子どもたちと考えた結果、ノート、作文用紙、画用紙、ドキュメント、スライド、オクリンクが挙がり、その中ではオクリンクを選択する子が多かった。オクリンクは、子どもたちにとって一番使用頻度が高いので、自分が書きやすいと思える方法を選択することは意欲に繋がっていたと感じる。しかし、オクリンクの場合、書くことよりも見やすさに子どもの意識が向いてしまい、単元で設定されていた「書く」における評価が難しくなってしまう状況があった。ICT機器を使うことの良さを子どもは感じていたが、単元として身に付けたい力が曖昧になってしまったのは大きな反省である。この反省を生かして、子ども一人ひとりの書きたい思いは引き続き大切にしつつ、さらに単元で

つけたい書く力も身に付けることができるように単元を作っていきたい。

そこで、今年度は昨年度意識していた2点に加えて、書くために必要な知識や技能を事前に確認する時間を設けたり、ICTソフトの特徴を知って選択できるようにするために、その良さを体験したりする機会を作ることが大切にしたいと考える。

①必要な知識や技能を確認することについて

子どもたちが書いたものを読むと、一文が長くて伝えたいことがはっきりしなくなったり、書いた後に読み直さなかつたりするところが見られる。そこで、文章を書くために必要な知識や技能を既習事項から挙げ、確認してから単元に入る。また、6年生で学習する「推敲」や「話し言葉と書き言葉」については時期を入れ替えて先に扱い、本単元に生かせるようにしたい。

②ICTソフトの良さを体験し、選択の幅を広げることについて

書く手段を子どもたちが自分で選択することが、書くことへの意欲に繋がることは昨年度の実践から明らかになっている。しかし、特にICTソフトにはそれぞれの特徴があり、使う内容によって適している時と適していない時があるのを、子どもたちはあまり理解できていないように感じる。自分が表現したいことがどのような方法でならできるのか。子どもたちの中に経験としてもっていないと、使いたい時に使えないことになってしまうので、今回の学習内容に適したものをいくつか取り上げて、経験する機会を設ける。ICT支援員と相談・連携を図りたい。

また、自分の考えを書くとはいえ、まずは考えを持つことができなければ書くことには至らない。そこで、本や曲など分野は問わずにテーマを「自分が薦めたいもの」とすることで、「書きたい」という思いを高めることができるようにする。本研究テーマにある「一人一人が個別最適な学びを充実させる」という点においても、子ども一人一人が自分でテーマや方法を決定して学習活動に取り組む「学習の個性化」、また、子ども一人一人の特性や毎時間の振り返りから、個の学習進度に応じ、表現の手段やその時間に何をしたいかをもとにして、柔軟に時間を提供することなどの「指導の個別化」を図りたい。そして、思いを高め、自分の薦めたいものを伝えるにはどうしたらよいか考え、自分の文章にこだわりをもってほしいと考える。

以上のことを踏まえて、相手に自分の思いをわかってもらうために言葉や順序を工夫して表現すると共に、相手の文章から気づいた良さや工夫を学び、認め合える姿を目指したい。

	小単元等	授業時間数	
既習事項の 振り返り 等	話し言葉と書き言葉の違いを知る。	1時間	4時間
	推敲の仕方について知る。	1時間	
	作文用紙の使い方や文と文をつなぐ接続詞の種類を知る。 主語と述語の復習 1つの文を2つの文にわけて書く	1時間	
	ICTソフトの体験（ICT支援員来校時にあわせて） オクリンクプラスの体験	1時間	
本単元の 内容	自分の好きなものやことを振り返る。	1時間	10時間
	クラスのみんなのことを「分かり合う」ために、自分が好きなことや物からすすめたいものを決める。	1時間	
	どのようにすすめられると相手が興味をもつか、すすめる時につかう効果的な言葉や文の構成、レイアウトを理解する。	3時間	
	どの方法で、どのように書くかを選択し、取り組む。	2時間	
	再度、自分の意見文を読み直したり、ほかの人に読んでもらったりして、より「見たり聞いたり読むだりしたいな」と思ってもらえる文になっているか確認する。	1時間	
	他の人の作品を読み「いいな」と思った表現や内容を伝え合う。	1時間	
	すすめる文章を書いて、今後の自分に生かせそうなことを振り返る。	1時間	

(2) 単元計画

*赤字は実際の流れに合わせて足したり修正したこと

学習形態

子どもの思い

方法

	学習活動 (○) 予想される子どもの反応 (・)	手立て	評価
1	<p>自分の好きなことや物、今、はまっていることは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球 ・バスケット ・本 ・アイス ・韓国アイドル ・漫画 ・ゲーム ・動画 ・キャラクター など ・お菓子 ・電車 ・お店 ・動物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップを取り入れ、自分の興味や関心、好きなことを明らかにしていく。 	
2	<p>「分かり合う」ために… みんなの好きなことや、はまっていることは何だろう。自分の「好き」もわかってほしいな。 → 「おすすめの○○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは「本」って書いているけれど、どんなものが気になるな。 ・アニメって書いている人が何人かいるけど、同じかな？ ・ゲームにしようと思っていたけれど、「曲」って書いている人がいたから、やっぱり自分も好きな曲にしようかな。 <p>「誰に？」がないといけないけど…</p> <p>みんなでそろえる 自分で決める</p> <p>(例) △△な○年生へ □□が好きな大人へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まったからもう書けそう ・どうやって書いたらいいかわからない ・どうしたらいいのかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で出した自分の「好き」からみんなに知らせたい(わかってほしい)ものを選び、分野のみオクリンクに挙げること <p style="text-align: center;">オクリンクプラス</p> <p>から、「それもあった」「あの人のことをもっと知りたいな」という気持ちを高める。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[個 スポーツ 本 曲 お菓子 ゲーム 場所 など] --> B[オクリンク] B --> C[全体] </pre> </div>	
3 4 5	<p>おすすめ○○を書くためのポイントを探そう どう書いたら、みんなに興味をもってもらえるかな</p> <p>○教科書P192の例文をよみ、取り入れるとよいことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれに？がはっきり 一見出し ・抜き出し (引用) ・言葉 (まちがいない・ふさわしい・圧倒される) ・投げかけ ・経験 ・写真や絵 ・強調 ・出典 ・せりふ ・感想 ・比喩 <ul style="list-style-type: none"> ・もう書けそうな気もするけれど、まだ不安があるな。 ・ざっと整理したい。・詳しく調べたい。 ・書くとき、インタビューも入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめする→興味をもってもらう」であることを確認する。 ・今回は文章で書くことを条件として挙げる。 	知①

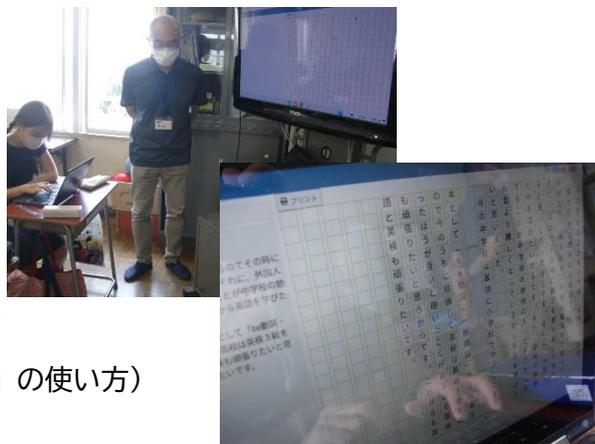
4	<p style="text-align: center;">書く前に準備、調査をしたいな 他にも使えることはないかな</p> <ul style="list-style-type: none"> このチラシにある「今しかない!」というのもいいね。キーワードが載っていると、「それで?」って知りたくなる。 どの写真を使うか探して選べたぞ。 2つ載せようと思ったけど、やっぱり3つにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 書評やチラシ、ポップなどを用意し、表現の数を増やすことができるようにする。 挙げた表現や良さは、次時に使えるように掲示しておく。 「この学習でできるようになること」を児童に伝える（単元目標とリンク） <ul style="list-style-type: none"> ○文と文との接続、言葉、構成 ○写真、引用などの工夫 ○伝えたい相手に伝わる文か? 	
6 5 6 7	<p style="text-align: center;">よし、書いてみるぞ! 自分はどうやって書こうかな</p> <p>○自分が選択した方法で、自分がすすめたいことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を入れやすいからドキュメントにしよう。 いくつか書きたいから、パンフレット形式にしようかな。 ちょっと迷っていることがあるから、同じようなことを書いている人に聞いてみよう。 自分ではいいと思うけど…。伝わるかな。 	<p style="text-align: center;">個 表現方法の選択</p> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; text-align: center;"> <p>パンフレット チラシ ポスター 作文 ノート</p> </div> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; text-align: center;"> <p>手書き ICT (ドキュメント) 原稿用紙 原稿用紙エディア マス目 画用紙</p> </div> <p style="text-align: center;">個 ↔ ペア 複数</p> <p>(同じ内容や表現方法の人と必要に応じて、レイアウトや文章について相談)</p>	考① 主①
8	<p style="text-align: center;">自分の書いた文は、伝わる出来になってるかな?</p> <p>○誤字脱字なども含め、ペアやグループで読み合い、相手が興味をもつような文になっているか確認しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真がもう少し大きいといいねと言われたから、見やすくしてみよう。 文章の順番を入れ替えたほうがわかりやすいって言われたから、替えてみよう。 友達の文末表現、自分も使ってみよう。 もっとほかの人の文も読みたい。 △△さんのは、読む人のこと考えていてすごく読みやすい ・これどういうこと? 	<p style="text-align: center;">個 ↔ ペア グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、書き直したり体裁を整えたりする時間を増やす。 	考②

9	<p style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;">みんなのおすすめを知りたいな</p> <p>○ペアで互いに読みあい、感想を伝えたり、自分に生かせそうな表現を探してノートに書いたりする。×モする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用されていると、イメージが持ちやすくて続きが気になった。 ・「〇〇な人におすすめ」って書いてあると、読む前の心の準備ができるね。 ・アイスの人、多かったね。読んでたら食べたくなった。 ・□□さんは、説明が詳しくてわかりやすい。 	<p style="text-align: center;"> 個 ↔ ペア グループ </p>	考②
10	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おすすめする文章を書いたり読んだりして、わかったことやできるようになったことを振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えたいときに使うとよい表現があることに気づいた。似たような文を書くときに使いたい。 ・友達のおすすめを知って、興味がなかったことでもちょっと気になるようになった。 ・今回は投げかけることが入れられなかったので、次は入れて書いてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を与える。 	

5 実践の様子

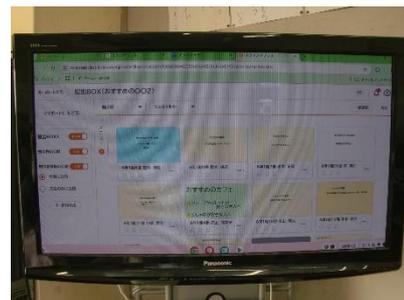
<既習事項の振り返り等について>

- ・6年生の学習内容である「推敲」「話し言葉と書き言葉」だけでなく、接続詞の種類や使い方を提示して、一文を短くしてまとめる方法も確認した。
- ・他の教科等でも使えるように、ここで学習したことは掲示した。
- ・ICT支援員と連携を図り、文章作成ソフト選択の幅が広がることできるように体験も行った。(写真は「原稿用紙エディタ」の使い方)



<本単元について>

- ・1時間目では個人で自分の興味があるもの(「おすすめ〇〇」)を出し、薦めるにあたって「誰に？」の部分全員同じにするか、それとも内容によって変更するかを考える時間をとった。結果、薦めたい相手も自分で決めることになった。2時間目はオクリンクプラスで全体共有した。その後、書き方のポイントを例文から探す時間をとり、「これを使えば書けそう」という思いで書き始めることができるようにした。
- ・児童の振り返りから、自分が薦める物やことについて知っている情報が少ないから調べる時間を取りたいという意見が挙がった。ここで文章の構成も行った。
- ・構成を行う際に、この単元でつきたい力(ここでできるようになること)も児童に伝え、文章を書くときにポイントを意識できるようにした。
- ・実際の流れでは、5時間目から個人で書き始めることになった。まだ、調査に時間が必要だったり、新たにインタビューを実施したい人もいたりしたため、もう書けそうな人は書き始め、調査が必要な人はそちらを行う流れとした。児童は使いたいもの(端末、ノート、画用紙、マス目、原稿用紙等)も選択した。



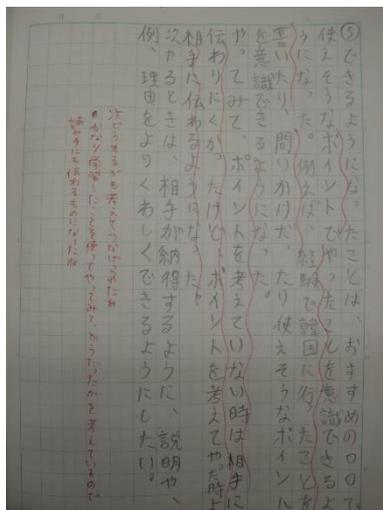
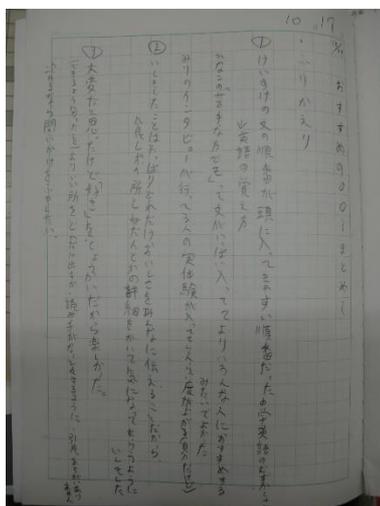
- ・6時間目は、ほぼ全員が書き始めていた。主に個の時間になるので、テレビに活動の流れを提示した。また、他の友達と交流したい子ができるように、だれがどんなテーマで取り組んでいるかをクラスルームに送った。相談したい子や内容に行き詰まっていた子は、クラスルームからヒントを得て、友達の取組を取り入れようとしていた。さらに、それを見て同じテーマ同士で集まって作業したり、必要に応じて相談したりする姿が見られた。もちろん、一人で黙々と進める子もいた。画像の検索をしてしまうと書く作業がおろそかになっている子もいたが、普段、学習（書くこと）に苦手意識がある子も、真剣に端末で文章を作成していた。そのような様子や子どもたちの振り返りから、次時も続きを行うことにした。



- ・もう既に友達と読みあう活動は行っていたが、個人の時間だけで終わっていた人もいたので、全体で自分の書いた文章が、伝えたい相手に伝わる内容になっているかを確認し合う時間をとった。その際の指摘としては、「ここがよかった」という良さを認めるものだけでなく、「もっとこうしたら?」「その言い方だとよくわからない」など、よりよい作品を目指すためのアドバイスもあったと振り返りからわかった。端末で作成したものは印刷して読み合っていたので、アドバイスを書き込む形でより良いものにしていった。その後は当初の計画通り、完成した友達の作品を読みあい、単元の振り返りをとった。

振り返りの視点

- ①友達の作品を読んでどうだったか。誰のどんなところがよかったか。
- ②自分が作品を書くときに意識したことはどんなことか。
- ③この学習を通して、できるようになったことや、取り組んでどうだったか。



← 児童のノート（振り返り）

6 成果と課題（成果=○ 課題=●）

<ICTの活用について>

- 文章を書く手段の一つとして子どもたちが認識していた。新しいソフトは事前に体験を行ったり、日ごろからノートでもドキュメントでも可としたりすることで使う頻度が増え、使いたい子は手段として選択できていた。
- ICTを選択した場合、推敲の時間が短くて済むので、直すことへのハードルが下がった。友達から得たアドバイスを入れ込むことも容易にできるので、よりよいものを目指そうとする意欲が見られた。

- 前時までの記録（みんなの考えなど）をクラスルームに入れておくことにより、児童が必要な情報を必要な時に見ることができた。書く手段としてだけでなく、ICTの良さを活用することができた。
- おすすめする物やことをわかりやすくするために画像を入れている子が多かったが、画像選びとなると時間がかかり、書く活動が減っている様子が見られた。ずっと見入ってしまうので、時間の声かけが必要だった。

<個別最適な学びと協働的な学びについて>

- 「おすすめの○○」という範囲の広さが、児童の「書きたい」という思いに繋がっていた。普段は学習に気持ちが向かない子も、このテーマによって集中して学習に臨んでいた。
- 毎時間の振り返りから児童の困り感や進度を把握し、展開を修正することができた。前時の終わりに次時ではどんなことをしようとしているのかがわかるので、必要に応じて資料を用意したり、どのように声をかけようか考えたりすることができた。
- 児童が必要に応じて友達存在を求めたり、離れて一人で書く時間を設けていたり、ペアになったりグループになったりするなど、書いている時には多様な動きが見られた。飽きて友達と違うことを話したり遊んでいたりする様子はなく、それぞれが必要なことを終えたら個人の作業に戻っていたことから、目的をもって対話したと考えられる。
- 児童の様子で時間を柔軟に対応することが今回はできたが、いつもそのようにできるわけではない。例えば、単元の時間の計画も児童に任せるという方法もある。自分で決めた責任も生まれるので、より主体的に学習に臨むことに繋がるかもしれない。

<昨年度の実践との比較について>

- 6年生の国語科で学習する内容や、文章を書くために必要な内容（復習も含め）を教師が把握したうえで単元を構成したことで、「これならできそう」が増えて、活動がスムーズになっていた。学習したことを掲示していたので、この学習中も掲示物に立ち戻る姿が数名見られた。
- 単元目標を児童用に「この単元でできるようになること」と言い換え、評価のポイントとして提示した。単元の中に組み込まれた知識や技能を習得する場面を経て、理解していることをどのように使うかという流れを作ることができた。また、指導と評価の一体化という点においても効果的だった。

今年度、改めて本研究のテーマと国語科としての内容を意識し、単元を構想した。実践を終えて、まずは教科における目標と、それを受けて目の前の児童にどんな力をつけたいかを考えることが大切になると感じた。児童が学習の中でどのような疑問や思いをもつのか、教師が児童の思考の流れを予想して単元を作ると、自ずとICTを選択するような機会や、協働が生まれるような場面も位置付けることができると思われる。その後、授業を進めながら児童を見取り、変容があれば計画を修正することもまた、児童一人一人の学びたい思いに寄り添うことに繋がる。そして、それが個別最適な学びの充実となるのではないかと考える。

今回の授業で、児童が「こんなことがしたい。こんな風に進めたい。」という思いをもって学習に臨んでいた時、集中して打ったり書いたり、友達と協働したりする姿や、思いを形にしようとする真剣な表情を見ることができた。このような児童の様子を増やしていくためにも、引き続き児童を中心に据えた授業作りを目指していきたい。

第2学年 社会科学習指導案

指導者：加藤 太一

1 単元名 九州地方 ～自然環境に注目して～

2 単元の目標

【知】九州地方の地形や気候の特色、火山とともに暮らす人々の工夫や、噴火への備えについて理解できる。

シラスの分布と特性を理解し、シラスでの農業の特色を理解することができる。

福岡市が発展した背景を大陸との距離や国内での位置に着目して理解できる。

沖縄独自の文化や沖縄が抱える課題について、位置や結びつきの視点に着目し、理解できる。

【考】火山がもたらす産業や、人々の生活とのかかわりについて考察できる。

二毛作や促成栽培が盛んな地域の共通点を、自然環境に着目し、関連づけて考察、表現できる。

北九州市の工業が発展した経緯と現在までの工業の発展について、アジアの国々との位置関係に着目して考察できる。

南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景を自然環境の視点に着目し、考察できる。

【主】九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ、人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づくことができる。

九州地方について、よりよい社会の実現を視野に自然環境と生活、産業とのかかわりについての課題を主体的に追究できる。

3 単元の評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①九州地方の地形や気候の特色、火山とともに暮らす人々の工夫や、噴火への備えについて理解している。 ②シラスの分布と特性を理解し、シラスでの農業の特色を理解している。 ③福岡市が発展した背景を大陸との距離や国内での位置に着目して理解している。 ④沖縄独自の文化や沖縄が抱える課題について、位置や結びつきの視点に着目し、理解している。	①火山がもたらす産業や、人々の生活とのかかわりについて考察している。 ②二毛作や促成栽培が盛んな地域の共通点を、自然環境に着目し、関連づけて考察、表現している。 ③北九州市の工業が発展した経緯と現在までの工業の発展について、アジアの国々との位置関係に着目して考察している。 ④南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景を自然環境の視点に着目し、考察している。	①九州地方で過去にあった具体的な自然災害の事例を調べ、人間が自然環境と共生するための工夫の必然性に気づけている。 ②九州地方について、よりよい社会の実現を視野に自然環境と生活、産業とのかかわりについての課題を主体的に追究しようとしている。

4 指導と評価の計画

(1) 指導にあたって (ICTの活用を含む)

Google スライドを活用し、九州地方で思いつくことを挙げた後、分類ごとに色を付けることで視覚的にどの分類が九州地方に多いのかを意識させるに重点を置いた。そこから、分類を組み合わせる時に教科書だけでなく、気軽に学習端末で調べることができるように心がけた。また、学級全体でスライドの情報を共有できるように Google クラスルームに学習課題を配付した。

小単元等		授業時間数	
1 次	1 九州地方の自然環境	2時間	6時間
	2 火山と共にある九州の人々の生活		
2 次	3 自然を生かした九州地方の農業	2時間	
	4 都市や産業の発展と自然環境		
	5 南西諸島の自然環境と人々の生活や産業		

3次	6 節の学習を振り返ろう	2時間
----	--------------	-----

(2) 単元計画

学習形態

子どもの思い

方法

次	学習活動	手立て	評価			
1	<p>1. 九州地方は、どのような地域なのだろう？－九州地方をながめてみよう</p> <p>① 九州地方の県をすべて挙げてみよう。</p> <p>児童生徒の思考・言葉・姿 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、 熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県</p> <p>②九州地方の8つの県で思いつくことは？自然環境・生活、工業、観光・他地方・海外とのつながり、農業、歴史・文化の面などで思いつくことを挙げてみよう。</p> <p>・スライドに班ごとコメントを書く</p> <p>②の生徒の思考・言葉・姿 温暖。雪が少ない。海がきれい。プロスポーツのキャンプ地。九州なのに県が八つ。出島。鉄砲。キリスト教。天草四郎。公害。台風。地震。八幡製鉄所。筑豊炭田。サツマイモ。火山。海。マンゴー。温泉。韓国近い。珊瑚。カルデラ。など</p> <p>③みんなの意見を分類別に分けてみよう。 自然環境・生活・工業・観光・他地方・海外とのつながり・農業・歴史・文化に色分けしてみよう。 上記は、例：生徒から出てきたもので分類を考える。</p> <p>③の生徒の思考・言葉・姿 ※色分けすることで九州地方の特色に気づく 温暖。雪が少ない。海がきれい。プロスポーツのキャンプ地。九州なのに県が八つ。出島。鉄砲。キリスト教。天草四郎。公害。台風。地震。八幡製鉄所。筑豊炭田。サツマイモ。火山。海。マンゴー。温泉。韓国近い。珊瑚。カルデラ。など</p> <p>2. 九州地方の人々の暮らしや産業、歴史から見るとどのような特色があるのだろうか？</p>	<p>わからない場合は、地図帳で調べる。 支援…教科書の写真・学習端末で調べる</p> <table border="1"> <tr> <td>学習端末 Jamboard 検索</td> <td>教科書 写真</td> <td>対話</td> </tr> </table>	学習端末 Jamboard 検索	教科書 写真	対話	<p>知</p> <p>生徒の変容① 九州地方の特色について、何となくイメージする。</p> <p>生徒の変容② 色分けから分類ごとに見ることで九州地方の特色に気づく。</p>
学習端末 Jamboard 検索	教科書 写真	対話				

<p>2</p>	<p>④分類を2つ以上組み合わせて、九州地方の特徴をとらえよう。(4人グループ)</p> <p>(1) 自然環境・生活 (2) 工業 (3) 観光・他地方や海外とのつながり (4) 農業 (5) 歴史・文化</p> <p>④の生徒の思考・言葉・姿など (1) 火山と(3) 温泉の組み合わせ⇒地熱を利用した発電 (1) 温暖と(4) 農業の組み合わせ⇒温暖な気候によるマンゴー栽培 (1) 海と(5) キリスト教の組み合わせ⇒海外との貿易 (1) 火山と(4) サツマイモの組み合わせ⇒シラス台地での栽培</p> <p>⑤④の組み合わせの理由を調べよう。</p> <p>・④の組みあわせの理由を調べる。 ※学習端末を使用してもよい。</p>	<p>知 思</p> <p>班</p> <p>全体</p> <p>生徒の変容③ 分類を組み合わせ、その理由を考えることで九州地方の特色が自然環境と関係づいていることに気づく。</p> <p>※手立てとして、地図帳の主題図から「人口の集中している地域と自然環境との関わり」や「農業と自然環境との関わり」、小学校での「歴史的分野での学習」から理由について気付かせるように支援する。</p>				
<p>3</p>	<p>3. 九州地方の特色を振り返ろう!!</p> <p>⑥④の組み合わせの理由から九州地方の特色を振り返ろう(まとめよう)。</p> <p>※プリントに前時で行った理由を参考にまとめ、その後、Google フォームにて提出。</p> <p>まとめた内容を発表しよう。</p>	<p>個人</p> <p>個人</p> <p>全体</p> <p>・組み合わせの理由から九州地方の特色をまとめる。 ・具体的な理由から九州地方の特色がとらえられているか(結びつきなど)。</p> <table border="1" data-bbox="869 940 1364 1064"> <tr> <td>学習端末 ・検索 ・スライドで書いた内容</td> <td>ノート ・ワークシート</td> <td>対話</td> <td>教科書</td> </tr> </table> <p>生徒の変容④ 自分や他の人の分類の組み合わせの理由から九州地方の特色をつかみ、様々な事象が自然環境と関係づいていることをさらに深めていくことができた。</p>	学習端末 ・検索 ・スライドで書いた内容	ノート ・ワークシート	対話	教科書
学習端末 ・検索 ・スライドで書いた内容	ノート ・ワークシート	対話	教科書			

5 実践の様子

- 生徒の変容については、①～④を参照。
- 九州の特色について、2つ以上の分類の組み合わせをすることが考えることの「めあて」となった。
→組み合わせの理由を考えるときに、教科書や他の意見、学習端末を用いて主体的に考えようとするこにつながった。
- 学習端末で課題を配信したことで今までの見返すことや他の生徒の意見と比較するなど、簡単にできるようになった。

6 成果と課題

<ICT 活用について>

成果としては、学習端末を使うことで記録に残すことができ、またいつでもどこでも再度、見直すことができる。Google スライドで班やクラス全体で課題を活動したり、情報を共有したりすることで主体的に学習に取り組んでいる姿があった。また、5クラスで同じ授業を行う機会があったが、「2つ以上の分類を組み合わせ、九州地方の特徴をとらえよう」では、クラスによって「班で活動する」ことと「個人で学習する」こと、どちらかで行って見たことで、個人で考えさせるほうが良いと思う部分があり、授業改善につながった。生徒にとっては、今回の課題を学習端末で行ったことは、自分や他の生徒の意見などを参考にしやすい、学習端末のスキルは教師側が思っている以上に高いため、普段の記述式のワークシートより多くの生

徒がスムーズに課題に取り組んだ。

課題としては、教員が Google スライドの作成にあたり、どのようなものが良いかなど、時間がかかる。個人の ICT のスキルに応じて、できるできないがある。また、学習課題をクラス全員でスライドを編集できるようにしたことで入力ミスが他の人に影響を与えたり、いたずらしたりして課題が消えたりすることがあった。学習端末の使用のルールはもちろんだが、日々学習に多く活用することでマナーの部分として生徒指導をしていく必要がある。ICT 支援員の活用をしていく必要性を感じた。

<個別最適な学びと協働的な学びについて>

Google スライドで班やクラス全体で課題に取り組み、他の班の情報を共有することにより、個人でも他の班の内容を見返し、振り返り、今までのワークシートや教科書、学習端末で調べるなど、自分にあった学習方法を選択することができた。「個別最適な学び」や互いの意見を交換し、さらに学びを深めることができる「協働的な学び」につなげることができたと感じている。「協働的な学び」から得た意見や情報を自分で整理し、学びを深めるために学習端末を活用し、調べたり、関係する企業や行政機関にメールやチャットを活用して情報を得たり、ICT を活用することで学習の幅を広げることができる。

課題としては、その一方で情報モラルや個人情報にも気を付けて指導しなければならない。また、6の課題にも挙げたが、学習端末を活用する上でのルールやマナーを理解させないと他者につながることで迷惑をかけたり、犯罪に巻き込まれたり、犯罪を犯したりする、危険がある。

第3学年 理科学習指導案

指導者：三廻部 啓輔

- 1 単元名 化学変化とイオン
2章 化学変化と電池
2節 電池とイオン

2 単元の目標

- 【知】 電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知る。化学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につける。
- 【考】 電極付近における変化をイオンのモデルを踏まえて考えることができる。
- 【主】 電池とイオンに関して、目に見えない現象と実際の現象を結び付け気づくことができる。また、電池とイオンを関連させながら、科学的に探究する。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 電池について、基本的な概念を理解し、知識を身につけている。 ② 電解質の水溶液と2種類の金属などを用いた実験に関する操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	① 電池が電極における電子の授受によって外部に電流を取り出していることを見いだす。 ② ダニエル電池の仕組みについて、イオンと関連付けて表現している。	① 電池とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

4 指導と評価の計画

(1) 指導にあたって (ICTの活用を含む)

観察・実験を通して、知覚に基づき、自然事象から情報を取り出す。このとき、変化を読み取り、気づきが生まれる。その気づきから、生まれてきた「なぜ」、「どうして」という疑問を大切にする。気づきで得た情報と、これまで学んできた知識を対応させ、解決への意欲が沸いた状態を目指して指導していきたい。

本単元では、化学電池に電解質の水溶液と2種類の金属などを用いた実験を行い、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを学んでいく。その中で、ボルタ電池・ダニエル電池の使いにくさに視点を置き、どのように改善したいか考えさせたい。現状を知り、原因に気づく。そして、課題を立て、探求する姿勢を育む。この流れを大切に指導する。また、理科を学習するにあたって、生徒一人ひとりが作業し自然事象を体験することが望ましいと考えている。そこで、作業時間や考える時間を確保するためにICTを活用していく。また、次の小単元である「いろいろな電池」につながりがあるように、ボルタ電池やダニエル電池の使いにくさを改善した電池を製作させる。大単元「化学変化とイオン」のまとめとして、これまで探求してきた内容をポスター (Google スライド) またはレポート (Google ドキュメント) を使用して、まとめを行う。その中に、よりよい電池を求めて設計させたい。これまでに、制作した化学電池などの実験過程や実験結果を写真などデータで記録していく必要がある。

本時は、ボルタ電池やダニエル電池を比較しながら、改善すべき点を探していく。その後、食塩水を高吸水性ポリマーに吸収させ、液体を使用しないボルタ電池を製作する。この活動を通して、探求・研究する姿勢を育むように指導していく。

(2) 単元計画

小単元等	授業時間数		6 時間
1. ボルタ電池と電池の歴史	2	時間	
2. ダニエル電池をつくってみよう	1	時間	
3. ダニエル電池から電気エネルギーを取り出すしくみ	2	時間	
4. よりよい化学電池って、どんなもの?	1	時間	

学習形態

子どもの思い

方法

次	学習活動	手立て	評価									
1 ・ 2	<p>電池とイオンの関係について理解を深めよう</p> <p>実験:ボルタ電池を作成してみよう。 ☆ こんな簡単に発電できるの? ☆ 電子オルゴール鳴ったけど、なんで豆電球つかないんだろう?</p> <p>・ 塩酸に電極（亜鉛版板・銅板）を入れ、電子オルゴールを鳴らす。また、豆電球に接続させる。</p> <p>発問:化学電池って、どんなもの。</p> <p>・ 電解質に2種類の金属を入れると、発電することに気付かせる。 ・ ボルタの電堆・マンガン電池について学ぶ。</p>	<p>全体 → グループ → 個 → 全体 実験実施</p> <p>・ Chrome book を使用して、実験結果を写真で残しておく。班員で共有する。</p> <table border="1"> <tr> <td>PC 記録</td> <td>教科書</td> <td>ノート 記録</td> <td>対話</td> </tr> </table>	PC 記録	教科書	ノート 記録	対話	知① 思①					
PC 記録	教科書	ノート 記録	対話									
3	<p>実験:ダニエル電池をつくってみよう。</p> <p>☆ ボルタ電池のときは、H_2の発生が邪魔だったんだよね。それを改善した電池はなに?</p> <p>・ 電解質水溶液に硫酸亜鉛・硫酸銅を使用し、電極（亜鉛板・銅板）を入れる。しきりは、素焼きの容器を使用する。 ・ 観察・記録する。</p>	<p>全体 → グループ → 個 実験実施</p> <p>・ Chrome book を使用して、実験結果を写真で残しておく。班員で共有する。</p> <table border="1"> <tr> <td>PC 写真・記録</td> <td>プリント 記録・まとめ</td> <td>対話</td> </tr> </table>	PC 写真・記録	プリント 記録・まとめ	対話	知②						
PC 写真・記録	プリント 記録・まとめ	対話										
4 ・ 5	<p>発問:ダニエル電池は、どのようなしくみで電気エネルギーを取り出せているのだろうか。</p> <p>☆ 気体は出なかったけど、何が析出したの? ☆ このときのイオンは、どうなっているの?</p> <p>・ 実験結果の考察を記入する。 ・ イオンの動きについて、仲間と相談しながら考えていく。 ・ 全体で電池とイオンの関わりについてまとめる。</p>	<p>全体:課題の確認</p> <table border="1"> <tr> <td>個</td> <td>複数</td> <td>グループ ※自己調整</td> </tr> <tr> <td>過去の実験写真で確認する 実験結果から考える</td> <td></td> <td>ペア・グループで相談</td> </tr> </table> <p>全体:電子とイオンの動きの確認</p> <table border="1"> <tr> <td>PC 写真・まとめ</td> <td>ノート 記録・まとめ</td> <td>対話</td> </tr> </table>	個	複数	グループ ※自己調整	過去の実験写真で確認する 実験結果から考える		ペア・グループで相談	PC 写真・まとめ	ノート 記録・まとめ	対話	思②
個	複数	グループ ※自己調整										
過去の実験写真で確認する 実験結果から考える		ペア・グループで相談										
PC 写真・まとめ	ノート 記録・まとめ	対話										

6	<p>発問:よりよい化学電池って、どんなもの?</p> <p>◇ 電子オルゴールの音、はっきりしなかったな。電池って、どこへでも持っていけて簡単に使えるよ。</p> <p>◇ 食塩水が電解質で安全だった。</p> <p>◇ 安全で持ち運べる電池をつくらう。</p> <p>・ 過去の実験写真を見て振り返りをする中で、ダニエル電池がボルタ電池より優れている点を探す。</p> <p>・ ボルタ電池とダニエル電池、共通して使いにくいところを探し、どのように改善すればよいか検討する。</p> <p>実験:電解質水溶液を工夫して、使いやすい電池をつくらう。</p> <p>※ 【個別】個々に電池をつくる。(電解質水溶液をポリマーに固定させ小型化する。)</p> <p>※ 【グループ】作製した電池を直列につなぐ。</p>	<p>全体:課題の確認</p> <p>個 複数 グループ</p> <p>※自己調整</p> <p>過去の実験写真で確認する 学習してきたことから考える</p> <p>ペア・グループで相談</p> <p>個別実験 & 実験</p> <table border="1"> <tr> <td>PC 記録・振り返り</td> <td>教科書 振り返り</td> <td>対話 相談・共有</td> </tr> </table>	PC 記録・振り返り	教科書 振り返り	対話 相談・共有	主①
PC 記録・振り返り	教科書 振り返り	対話 相談・共有				

5 実践の様子

- 実験道具（銅くぎ、マグネシウムリボン、食塩水をしみ込ませた高吸水性ポリマー）を一人ひとりに用意することで、それぞれが試行錯誤しながら制作する姿があった。また、仲間の発想をもとに工夫し、Chromebookで写真を撮って記録していた。
- 実験レポートは、Googleドキュメントを使用してまとめた。今まで記録してきた写真やメモをもとに、どのようにすればよりよい電池になるかなど探求する姿勢があった。また、図などは手書きのものを写真に撮るなど工夫して期限内にできるように取り組んでいた。

6 成果と課題

<ICT活用について>

実験道具や実験方法などを写真や動画を使用して記録していた。今回は、それをもとにGoogleドキュメントで実験レポートをまとめた。図を手書きで書きそれを写真に撮り実験レポートに張り付けたり、実験を振り返るのに使用したりと活用している姿があった。

鮮明に振り返ることができるが、手書きや口頭の方が時間を取らずに授業が進むように感じた。

<個別最適な学びと協働的な学びについて>

生徒一人ひとりが実験操作をすることで、「これを試してみたい」、「これを真似したらどうなるんだろう」などそれぞれにより良い電池になるように探究する姿があった。個別に実験しているのだが、「どのように作ればよいか」、「どのように工夫すればよいか」など話し合いながら進める姿もあった。また、それぞれが作製した電池を直列につなぐことで、大きな電力を得ていた。個別実験と協働実験を組み合わせることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながっていたと考えられる。

また、ドキュメントでまとめたレポートでは、より大きな電圧を得るための電池やより小型化するための電池など、生徒一人ひとりに応じた探究活動に取り組む機会を設定したことで、調べたり仲間に聞いたり調整しながら学習に取り組むことができた。学習の個性化から個別最適な学びにつながっていた。

しかし、個別実験を頻繁にすることが難しい。実験道具をそろえること、個々の技能を育むこと、コスト面など、課題がある。どの場面で個別実験を取り入れるのか、計画的に考える必要がある。

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者：鈴木 直人

1 単元名 私達のフラワー大作戦

2 単元の目標

- 【知】 課題解決のために必要な情報を、自分なりの方法で調べることができる。
物を作製したり販売したりすることは簡単ではないことを体験的に理解するとともに、その上で自分たちの思いを実現できたのは探究的に学習してきた成果であることに気付くことができる。
- 【考】 課題解決のために集めた複数の情報を、比較したり関連付けたりしながら分析し、実際に取り組む内容を具体的に考えることができる。
伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、ポスター・プレゼンテーション・動画等を通して表現することができる。
- 【主】 得た知識や技能を生かしながら、友達と協働して押し花やドライフラワー作りの問題を改善しようとするすることができる。
伝える相手や目的を意識して、よりよい発表にするために粘り強く取り組もうとすることができる。
探究の過程を振り返り、総合の学びのよさを再認識し、今後に生かそうとすることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①課題解決のために必要な情報を、自分なりの方法で調べている。 ②物を作製したり販売したりすることは簡単ではないことを体験的に理解するとともに、その上で自分たちの思いを実現できたのは探究的に学習してきた成果であることに気付いている。	①課題解決のために集めた複数の情報を、比較したり関連付けたりしながら分析し、実際に取り組む内容を具体的に考えている。 ②伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、ポスター・プレゼンテーション・動画等を通して表現している。	①得た知識や技能を生かしながら、友達と協働して押し花やドライフラワー作りの問題を改善しようとしている。 ②伝える相手や目的を意識して、よりよい発表にするために粘り強く取り組もうとしている。 ③探究の過程を振り返り、総合の学びのよさを再認識し、今後に生かそうとしている。

4 指導と評価の計画

(1) 指導にあたって (ICTの活用を含む)

本校では、「響き合い」「高め合い」を大切にした授業づくりに努めている。それは、学校で学ぶことのよさは多様な他者とそれぞれの思いや考えを交流しながら、多角的なものの方や新たな価値観を見出し、成長し合えることにありと考えるからである。本学級の児童は、自分の考えを持っていても全体の場で発言することに抵抗感がある子どもも多く、一部の子の意見や考えで学習が進むことがあったため、年度当初から学級の親和的な雰囲気作りを行ってきた。また、学習場面に応じて、ペア・グループ・フリートーク・全体解決など、いろいろな形態を取り入れてきたため、全体では発言できなくても小集団の中では意思表示ができるようになってきた。それに加え、授業の中で子どもから出された「よい話し方」「話型」を拾い上げ、価値づけてきたことで、発言する際のスキルも少しずつ身に付いてきた。まだまだ不十分であるが、これまでの本学級のこうした土台を生かしつつ、総合学習の時間の指導にあたっては、以下のようなことを特に大事にしている。

①探究的な学びのサイクルを常に意識させる

総合のオリエンテーションの時間には、あらためて「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表

現」という探究的な学びのサイクルについて説明した。1～2年生の生活科、3～5年生での総合でも当然積み重ねてきている学び方であるが、活動が中心になるとそれのみを楽しんでしまい、「何のための学びなのか」が薄れてきてしまうように思う。そこで総合は、自分たちで設定したテーマ・目指すゴールに向けてトライ＆エラーを繰り返しながら迫っていく楽しい学習であることを年度当初に強く意識させた。

また、「今の活動はどの段階なのか」「次はどの段階に進むのか」をその時々で問うことで、子どもたちが見通しをもって活動できるようになってきている。

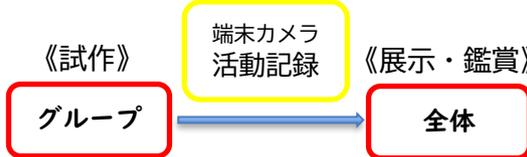
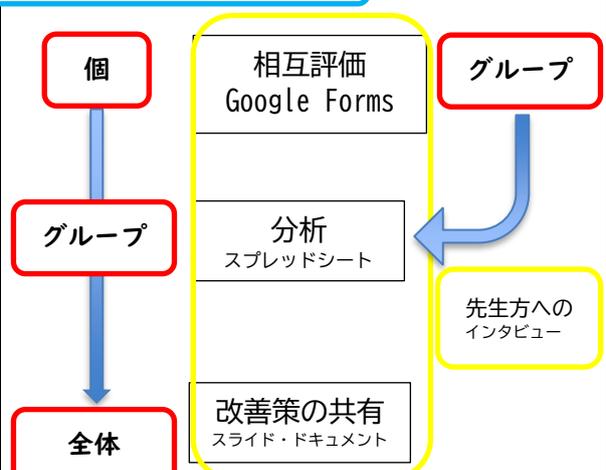
②話し合いの時間を大切にする

総合学習は、他の教科に比べ、自分たちが本当にしたいことを探究していける教科であるため、学びへの強い思いを持ちやすい。そこで話し合いの時間を十分に保障し、時間をかけて合意形成を図っていけるように単元計画を立てている。また、子どもたちの思いに合わせて柔軟に単元計画を変更するようにしている。トライ＆エラーの時間を特に大事にし、「なぜうまくいかなかったのか」「どうしたら改善できるか」などに向き合い、仲間と話し合うことで課題解決に迫ることができている。そうした中で、協働的な学びの良さを実感させていきたいと考えている。

③ICTを身近にする

「ICTの活用」と言われると、私同様、抵抗感を感じる教師・子どもも少なくない。ICT機器は非常に便利であるが、それを使って何かすごいことをしようとするのではなく、「無理なく使えるようにすること」「文房具の一部として使えるようにすること」「必要に応じて使えるようにすること」が大切であり、それを実現することで、各教科の指導目標の達成に近付きやすくなると思う。そこで、日ごろからタイピングやGoogleドキュメント・Googleスライド・Googleフォーム・キネマスターなどに触れさせ、良さを体感できるようにしてきた。その結果、総合の学びにおいても、「この場面では、この使い方をするといい」と自分たちで判断し、選択できるようになってきた。本時でも、「お客さんを呼んで作ったものを販売したり、作り方を教えたり、自分たちの取り組みを発表したりしたい!」という思いのもと、自分たちのやりたいことを実現するために必要な方法を考え、最適なものを選択し、取り組んでいけるものと考えている。

小単元等	授業時間数	
1. オリエンテーション「総合の学び方」	1時間	60時間
2. 総合のテーマ・ゴールを決めたい!	3時間	
3. ゴールに向けて、何をどんな順番でしたらいいのかな?	4時間	
4. 押し花・ドライフラワーの作り方を調べたい!	4時間	
5. 実際に作ってみたい!	6時間	
6. どうやったらもっとよい作品が作れるか考えたい!	4時間	
7. たくさんの種類の押し花・ドライフラワーを作りたい!	16時間	
8. 作った押し花・ドライフラワーの販売方法を決めたい!	2時間	
9. お客さんを呼んで作ったものを販売したり、作り方を教えたり、自分たちの取り組みを発表したりしたい!	16時間	
10. 販売して得た利益を、誰かのために使いたい!	3時間	
11. 1年間の総合の学びを通して、自分たちにはどんな力がついたのかな?	1時間	

<p>13 ～ 20</p>	<p style="text-align: center;">作る物の役割分担をして、実際に作りたい！</p> <p>○作る物を決め、役割分担をする</p> <p>○おおまかなスケジュールを決める</p> <p>○試行錯誤しながら取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは自分たちで花を持ち寄って作ろう。 ・自分たちで育てた花でもドライフラワーを作ってみたいな。 ・やって分かったけどドライフラワーに適した花がありそう。 ・とりあえずできたけど、売るならもっとうまく作りたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が「作ってみたい」と思った作品を選択させ、活動への意欲を引き出す。 ・花や用具の準備や共有をし、どのグループも活動できるようにする。  <p>《試作》 → 端末カメラ 活動記録 → 《展示・鑑賞》</p> <p>グループ → 全体</p>	<p>知②</p>
<p>21</p>	<p style="text-align: center;">売る方法や場所を考えたい！</p> <p>○よりよい販売の仕方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休みの日にフリーマーケットで出品しようよ ・でもそれだと、行ける人だけになっちゃうからいやだな。 ・校長先生にお願いして校内で販売させてもらおうよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品を誰に購入してほしいのか、そのためにはいつどこで販売するのがよいのかを考えさせる。 ・「販売したい」という思いを実現するためには、お願いしたい場所に自分たちで依頼し許可を得る必要があることを教える。 	<p>思①</p>
<p>22</p>	<p style="text-align: center;">販売して得た利益を、誰に寄付するのか決めたい！</p> <p>○誰かのために役立てる喜びを味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然保護の団体に寄付しよう。 ・小田原市に寄付するのはどう？ ・花屋さんにお礼がしたい。 ・学校が花でいっぱいになるように、学校に寄付したらどうかな？ ・学校に寄付して、後輩たちに総合の学習で使えるお金として役立ててもらおうよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・収益から原価を引いて、自分たちが得た利益を誰にどうやって使ってほしいのか、話し合っって合意形成していく。 	<p>思①</p>
<p>23 ～ 25</p>	<p style="text-align: center;">もっと良い作品にするために試作品を評価してほしい！</p> <p>○「もっとよい作品を作りたい」という思いを表出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作品を評価し合おうよ。 ・先生方にアドバイスをもらいたいな。 ・うちのお母さんが押し花得意だから聞いてみようかな。 ・学区に花屋さんがあるから、教えに来てもらおうよ。 ・上手な作り方が分かったから、色々作ってみたいな。 	 <p>個 → 相互評価 Google Forms → グループ → 分析 スプレッドシート → 全体 → 改善策の共有 スライド・ドキュメント</p> <p>先生方へのインタビュー</p>	<p>主①</p>

<p>26 ～ 37</p>	<p style="text-align: center;">先生方やみんなからの評価をもとに、商品として価値のある作品を作りたい！</p> <p>○相手意識をもって、作品作りに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジンに気泡が入ってしまっているから、気泡が入らないように作り直そう。 ・花の量に偏りがあるから、そろえようよ。 ・ラメの量を調整して、押し花がもっと目立つようにしよう。 ・改善したから、もう一度みんなに評価してほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば学校教育予算による支援をしてもらい、子どもたちの作品作りに必要な材料を十分に確保する。 ・「価値のある作品を作る」という自分たちが立てた目標に常に立ち返らせ、大量生産の上でも丁寧さを意識させる。 	<p>知② 主①</p>
<p>38 ～ 42</p>	<p style="text-align: center;">お互いの作品をもう一度評価し合って、もっと価値のある作品を作りたい！</p> <p>○再度評価し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はすぐに評価が分かった方がいいから、付箋に書いてほしいな。 ・付箋を整理すると改善点がはっきりするね。 <p>○もう一度作品作りを進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん作品ができたね。 ・そろそろ販売する商品の価格を決めようよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いに応じて、評価の仕方を決定する。 ・友だちからの評価を整理して、みんなの意見が多かったところから改善するように助言する。 	
<p>43 ～ 45</p>	<p style="text-align: center;">販売する商品の価格・販売日を決めたい！</p> <p>○価格の決め方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安くすればみんな買ってくれるでしょ。 ・でも原価をまず考えないと赤字になるよ。 ・自分たちの手間や労働時間も含めて価格を設定する必要があるんじゃない？ ・「作った人がいくらで売りたいか」という視点が大事でしょ。 ・でも「買う人がいくらで買いたいか」という視点も大事じゃない？ ・マーケティングの三角形に当てはめたら？ ・ネットで平均価格も見ようよ。 ・価格設定って、難しい…。 ・とりあえず作った人が価格を決めてみて、みんなでその価格でよいか評価しあったらいいんじゃない？ <p>○決めた価格が妥当か評価し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この価格は安すぎる。利益が出ないよ。 ・この価格はちょっと高くない？小学生が買いやすい価格にしようよ。 ・大人に売るならこの価格でもいいでしょ。 ・子どもの感覚と大人の感覚でズレがありそうだから、先生方にも評価してほしいな。 ・これで価格が決まったから、次は販売日を決めようよ。 <p>○販売日を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月の授業参観に合わせて、販売しよう！ ・販売日が決まったから、次はお客さんに来てもらえるように準備していこう。 	<p>・価格の設定にあたり、テーマ決めで用いたマーケティングの三角形を意識させる。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[原価] --- B[売りたい価格] A --- C[買える価格] B --- C </pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いに応じて、評価の仕方を決定する。 ・販売する相手を意識した価格になっているか、必要に応じて助言する。 ・価格設定に無理があると感じた場合には教師から伝えるが、最終的には子どもの思いを尊重する。（無理があれば売れないはずなので、それでも構わない。） <p>・販売日を決めることで、準備を進める意欲や必要感を引き出す。</p>	<p>思①</p>

<p>46 ～ 本時 (51) ～ 55</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;">お客さん呼んで作ったものを販売したり、作り方を教えたり、自分たちの取り組みを発表したりしたい！</p> <p>○個別最適な学び（思いを実現するために手段を選択して取り組む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さん呼べるようポスターを作るね！ ・興味をもってもらえるよう、作り方を動画にして見せようよ。 ・僕はこれまでの取り組みをプレゼンにまとめるね！ ・じゃあ、私はスライドに合わせて、発表原稿をドキュメントに打つよ。 ・一応発表資料ができたけど、本当にこれでいいのかな？みんなに見てほしいな。 ・みんなもらったアドバイスをもとに、もっと改善しよう。 <p>○販売してお客さんに喜んでもらったり、利益を出したりする楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの作品をかわいって言ってくれた！ ・お客さんが喜んでくれてうれしいね！ ・たくさん売れたからやってよかったよ。 <p>○販売利益の寄付の仕方に目を向ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部でこれだけの利益が出たけれど、どうやって学校に寄付しようか？ ・全校のみんなに思いが伝わるといいな。 	<p style="text-align: center;">《個別最適な学び》</p> <p style="text-align: center;">《フィードバック》</p> <ul style="list-style-type: none"> Google スライド (発表資料) Google ドキュメント (発表原稿) キネマスター (動画制作) Google スライド Canva 教育版 画用紙 (掲示物制作) (配布物制作) Google Forms (アンケート) 付箋 (アンケート) インタビュー (生の声) <p>・活動方法の多様性を認め、自分たちの必要に応じた適切な方法を選択、表現させる。</p> <p>・本学級の一方的な発信にせず、様々な形でフィードバックがあるようにしたい。</p>	<p>知② 思② 主②</p>
<p>56</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;">販売して得た利益を学校に寄付して、後輩たちに有効に使ってほしい！</p> <p>○よりよい寄付の仕方考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼の放送で寄付することを伝えよう！ ・校長先生にお願いして、朝会で時間をとってもらって贈呈式をしようよ！ ・学校のために何か残せてよかった。自分たちへのご褒美もほしいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの言葉で直接伝えたり、みんなが喜ぶ表情が見えたりするように、朝会で贈呈式のを設けてもらえるよう事前をお願いしておく。 	
<p>57 ～ 59</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;">6年生の総力で頑張ったことを形として残すために、みんなでおそろいのキーホルダーを作って、自分たちだけの卒業記念品にしたい！</p> <p>○共通のデザインを決め、協力してつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうやって形に残せるっていいね。 ・自分たちだけの卒業記念品、うれしいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おそろいの記念品を作ることで、学習の楽しさに加え、クラスの特別感も演出する。 	
<p>60</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px;">まとめ 1年間の総合の学びを通して、自分たちにはどんな力がついたのかな？</p> <p>○探究的な学びで身に付けた力を実感する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりあえず試してみる勇氣、改善する力が付いたんじゃないかな。 ・目標達成のために協力する力が付いたよ。 ・自分たちの思いを実現するために粘り強く取り組む力がついたと思う。 ・探究することを楽しむ力がついたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の総合の学びを通して「楽しかったこと」「うれしかったこと」「自分が身に付けた力は何か」などの視点を与え、振り返りしやすくする。 ・これまでの自己の学びをメタ認知させることで、中学校に行っても探究的な学びをしていきたいという思いをもたせる。 	<p>知② 主③</p>

5 本時の指導案

本時の目標 「相互評価の分析をもとに、発表や集客のための資料を改善することができる」

本時の学習 (51/60)

学 習 活 動	教 師 の 支 援
1. 前時までの学びを振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料をお互いに評価し合った。 ・もらった評価をもとに良い点や改善点を分析したよ。 ・今日は、分析結果を活かして資料をもっと良くしたい！ 	○前時までの学びを振り返り、本時の探究活動への意欲を引き出す。
分析結果を活かして、資料をもっと良くしたい！	
2. 個人やグループごとに今日の取り組み方を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・僕たちは、ポスターの文字が見づらいと言われたので、大きくしたり、色をつけたりして見やすくします。 ・スライドの言葉が下級生には難しいと指摘されたので、できるだけ簡単な言葉に直します。 ・僕たちのグループは、スライドの文字数や情報量が多いと言われたので、文字を減らしてイラストを入れます。 ・私たちのグループは、動画の1コマの時間が短いと言われたので、流す時間を調整したいと思います。 ・私たちの動画は、手元が見えなくて作品の作り方がよくわからないと言われたので、テロップを入れます。 3. 自分に合った方法で、資料を改善する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの文字の大きさは、これぐらいでどうかな？ ・もっとお客さんが来たいと思うような言葉を入れたら？ ・スライドの文字を減らしたけど見やすくなった？ ・1コマの時間が長くなって動画をじっくり見られるね。 ・テロップはどうやって入れるの？教えて！ ・先生たちがたくさん見に来ているから、アドバイスをもらおうよ。 4. 進捗状況を伝え合い、次時への見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日は～を改善したけど、～がまだできていないから、次の時間に改善したいと思います。 ・改善しようとしたけれど、うまくいかないから、動画や写真を取り直してもう一度作ろうと思います。 	○「そもそもなぜ資料をよくするの？」と問いかけ、活動の前に相手意識をもたせる。 ○今日の取り組み方を友達に伝えることで、自分の学びを自覚できる時間にする。 ○前回まとめた分析結果を手元に置かせ、改善できたらチェックを入れるよう促す。 ○この後の学びに関わる活動や時間を自分たちで決めさせる。(「進捗状況の報告をしたい」という思いがなければ、無理に時間を設定しない。) ○自由な交流が生まれやすいよう、教室と児童会議室(となりの教室)を使用し、広くスペースをとる。 ○活動への困り感のある児童にアドバイスをしたり、操作や制作が得意な子につないだりして、活動をサポートする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 伝える相手や目的を意識して、よりよい発表にするために粘り強く取り組もうとしている。</p> </div> ○時間が足りない場合には、改善できたか、まだ途中か程度の確認におさめる。
5. 学習の振り返りをする	○学習の振り返りをすることで、メタ認知を促し、次の時間への意欲につなげる。